

第7回豊岡市基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時 平成29年2月6日（月）午後1時30分～午後3時15分
開催場所 豊岡市役所 3階庁議室
出席委員 加藤委員、井垣委員、大槻委員、近本委員、由利委員、平峰委員、岡本委員、
河口委員、河本委員、酒井委員、中川委員、田口委員、上田委員、中嶋委員
欠席委員 土野委員、西村委員、宮崎委員
傍聴人 3名

1. 開会

2. 会長あいさつ

もう第7回となりまして、計画全体の体系とか構想のイメージなども出てきていますので、早速事務局よりご説明をお願いいたします。

3. 報告事項

豊岡市基本構想及び市政経営方針に関する条例の制定について

4. 協議事項

(1) 計画全体の体系

(2) 豊岡市基本構想イメージ

～ 事務局から説明 ～

会長 | 今日は事務局より全体のイメージを出していただきましたので、忌憚のないところでご指摘・ご意見をいただき、次の会にはより良いものを出していただくということで何かご意見ありますでしょうか。

(委員) | まず、2ページのまちづくりの理念で、「いのちへの共感に満ちたまちをつくる」として、条例について書いてありますが、「いのちへの共感に満ちたまちをつくる」と、第2章以降に書かれているものがなかなかストレートに結びつかないという印象があります。条例を改めて読みましたが、内容をよく見れば理解できますが、ここで使うのであれば、もう少し条例の内容を理解してもらえような書きぶりにする必要があるのではないのでしょうか。

次に、今年の4月から、公民館単位や学校区単位で新しいコミュニティの取組みが始まります。市が一斉に取り組もうとしている大きな流れなので、どこかに新しいコミュニティという言葉を入れて欲しいと思います。

また、旧市町の取組みが入っていますが、例えば7ページのところで城崎、出石などが出てきますが、他の市町にも例えばジオパークなどもあって、それを残していこうと頑張っているのが、旧1市5町についても満遍なく入れていただきたいと思います。

- 会長 1つ目については、少し説明を加えたほうが分かりやすくなると思います。コミュニティの件については、今動いているものを構想にどのように入れるのかは難しいですが、ご指摘ですのでご検討いただきたいと思います。3つ目は、事例として城崎と出石が書かれていますが、あくまでも構想ですのでそのあたりご配慮いただいた表現で検討いただければと思います。
- (委員) 2ページの大きな社会の変化ですが、ここに書いてあるのはSWOT分析の脅威だけなので、機会についても入れたほうが良いのではないのでしょうか。例えばグローバル化の進展も、外国人が入ってきてどうこうと言われていますが、経済の面では市場の拡大、靴の話もあるので、プラスのメリットもあります。デメリットでいうと、世界的にコスト競争が激しくなるという問題があります。例えば、環境の問題も深刻になってくるのですが、環境にやさしいものを生み出すという思考があって、それが1つのチャンスとなり新しいものが生まれるので、threat（脅威）だけでなく、opportunity（好機）も入れていただけたらと思います。
- 会長 「立ちほだかる」などという表現などですね。社会の潮流の変化ですので、裏側の関係もあります。アメリカの大統領が1980年代の話をいまだに話していますが、環境問題としてパリ協定から脱退すると言ったりしていますが、環境問題が厳しくなるほど技術革新が進み、いろんな新しい社会を作り出していくので、表現ですよ。潮流としては4つでいいですが、進化していくという書きぶりにしていただければと思います。
- (委員) 4ページの地域固有の財産を磨くですが、財産というモノ的なもので輝くのではなくて、そこに至るまでには、人がいるはずですので、地域や人を磨いて世界で輝くというのがもう少し出るような表現にして欲しいと思います。人材育成とか色々入っていると思いますので。
- あと、全体として、じっくり読まないで中身が入ってこないのも、もう少し文章を分かりやすくするなり、そのあたりの表現を検討していただきたいと思います。また、4章以降もあちこちに飛んでいて流れが悪いので、そのあたりをもう少し考えていただかないと分かりづらいという印象です。
- 会長 パッとみて、嫌気がさしてしまうとどうしようもないので、分かりやすくということ。地域固有の財産というのは、どうしてもモノのイメージで、人ではないのでそのあたりの表現もご検討ください。4章についても、項目としては良い項目だと思いますが、思いつきで並べられているような気もしなくもないですね。表現の仕方、6つなので、六角形にして、重要なのは相互に関連しているということが大切だと思うので、思いつきで並んでいるのではなく、相互に関連していて、そのことが重要だという表現に変えていただくと良いかと思います。
- (委員) すごく、うまくまとめられているなと思いました。多様性を受け入れる社会について入れ込まれていますが、今、格差のないまちという経済格差の問題が非常に出ていて、貧困の問題や福祉の問題も今後進んでいくと思います。ユニバーサル社会とかそういう話も出ていますが、その前に、もっと多数を占めるだろう福

社のお世話にならないといけない人、そういった視点が抜けているのではないのかなという気がします。

会長 どのあたりに入れるのか、多様性を受け入れる社会というところに入れるのか、もうひとつ軸をつくるのか、大変重要な項目だと思います。事務局でご検討ください。

(委員) 先ほどのコミュニティの話については、ここにほとんど入っていないという指摘はそのとおりだと思います。これは事業だとかそういう切り分けではなく、ある程度柱として出していかないといけないと思います。

もう1つ、歴史とかそういうものを受け継ぐというなかで、歴史のどこかだけを切り取って、お祭り、イベントにしてしまっています。例えば「大石りくまつり」という観光イベントがあるのですが、来客数が少なければ補助金がなくなるということが現実にあります。豊岡市としてりくさんをどのように継承していくのが本当に重要なことであって、イベントが重要なわけではないので、考え方としては、守り伝えていくことが重要だと思います。

会長 大変貴重なご意見ありがとうございます。この中に、どのように入れ込んだら良いのかわかりませんが、大変重要だと思います。今話を組み込んでいただきたいと思います。コミュニティの話もこの6本の柱のなかでは、多様性の話で受けるのだと思いますが、文章表現を検討いただければと思います。

(委員) 将来像が「小さな世界都市」というのは良いと思うんですが、現行計画では「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」となっていて、全く違うものです。世界都市でいくのであれば、まったくゼロからの設定ではなくて、現スローガンの「コウノトリ」の発展型が「小さな世界都市」なんだと思うんです。そうした時に人と自然の共生する地域社会を作ることからもう少し広げるよという形だと思いますが、このイメージだと切れてしまっていると思うんです。第4章の「自然との共生を徹底する」において、(1)と(2)を入れかえたら良いのではないのでしょうか。大災害は大事ですが、コウノトリを前にすることで、前回からの流れが残って良いのではないのでしょうか。

あと、目指すべき将来像のイメージがわかりません。「こういうまちになりますよ」ということを第4章を要約した形でどこかに書いたほうが良いのではないのでしょうか。これはこれで良いとして、グローバル化の中で、「安心して暮らせるようなまちにしましょう」とか、「若者がもっと帰ってくるまちにしよう」とか、具体的なイメージがわくようなものが欲しいと思います。

また、第3章のまちづくりの基本姿勢については、第1章、第2章と同じようなことが書いてあると思うので整理が必要ではないのでしょうか。

会長 将来像のところ、空白のあたりに作文していただいたらどうでしょうか。3章は、最初は皆さんのワークショップの成果のキーワードが入っているようですが、同じようなことを繰り返している傾向が見られます。計画の流れが皆さんの中にすっと入るようにうまく編集をお願いします。

(委員) 2ページのグローバル化の進展のところですが、文章は特にグローバル化に

限った内容ではないので、グローバル化であれば先ほどご説明されたような内容で書いていただいたほうが良いと思います。

外国人への語学や生活の対応の文章で、語学というよりは言葉のほうが良いと思います。あと、9ページに、在留外国人とあるんですが、在留と書く必要があるのでしょうか。外国籍と書いたこともあります。外国にルーツを持つ人とか、在住外国人とか、地域の外国人とか、もう少し表現を分かりやすくしていただいたらと思います。

(委員) 9ページのの6に「挑戦する人を育てる」とあり、ここに色々な教育をすると書いてありますが、一番大事なことはリーダーシップのある人を育てることだと思うんです。それがなくてここに書いてあるようなことは全部できません。人と人との関わりのなかで、人にもまれて知らず知らずのうちにリーダーシップを学び、まちを引っ張っていくようなことが今はなかなかできません。城崎はリーダーが多くて、投げかけても答えが早かったり、方針が決まるのが早いんですが、リーダーがいないところはいつまでも人任せなところがあります。そのところのリーダーについての教育をしないと、施策はあるけど人がいないということになっていってしまうと思います。リーダーがこういうことをやりたいといえは手を貸す、お金を貸すというのが行政の仕事であって、行政が全部して市民が受け入れるなんていうことは成り立ちません。人材育成については真剣に考えないと、絵に描いたもちになると思いますので、重要度を考えた記載をお願いしたいと思います。

会長 日本社会の本質的なところにつながっているのでもそこは難しいですね。日本社会はこれまでみんな平等に教育してきたのがであって、西欧は社会のリーダーを育てるやり方とは違ってきているんですよ。

(委員) 豊岡の中学校は、揉め事が起きるからと、学年相互でかかわらないようにしているのを聞きました。城崎の中学校も、ほかの中学校と部活以外で関わると指導が入るとか聞いたんです。大事な中学校の時期に、人とのつながりを妨げるというのはどうなのかなと思いました。

(委員) リーダーが出て来ても受け入れられるまちなのか、また来たわというまちなのかによって雰囲気も違うと思うんです。若い人の気持ち、熱い思いが受け入れられるかどうかなんです。せつかくやる気があっても妬まれたりすることもあるので、次の世代の人がリーダーになりたいと思った時に、それを支えてあげられるまちであるかどうか、変わろうという覚悟が必要だと思います。

(委員) 城崎はリーダーが多いという話ですが、港中学校では、中学校に入ると髪のを切らないといけないというルールがあるなかで、城崎中学校は以前から生徒が自分たちで校則を決めているらしいです。

(委員) 育てるというのも大事だが、リーダーが帰ってくるということも大事だと思うんです。城崎はリーダー層が帰ってくるまちで、優秀な人材が帰ってきているんだと思います。

(委員) 稽古堂塾を開催されていますが、もう少し若い年代からも受講できるように

なればと思います。中学生や高校生から学校の指導だからと抵抗せずに疑問に思ったことに対して反論するような考え方を持つ指導も大切だと思います。

(委員) そういった考え方を持つ若者が増えることが、地域のコミュニティづくりにも大切になると思います。例えば、一旦出て帰ってくれば、地域のリーダーになる人材になると思います。

(委員) 中学生と地域との関係ですが、城崎のクリーン作戦は中学校の生徒会が中心になってやっていますし、神鍋のほうは生徒会で、独居老人訪問なんかもやっています。生徒会長などが市全体で集まって、テーマを年ごとに決めて取り組むなど、皆さんが思われている以上に彼らもやっています。

会長 教育は大きな課題だと思いますが、基本構想ではなかなか表現できないと思いますので、これをベースに教育委員会や現場の先生に考えていただくというようなことになると思います。

(委員) 6ページの囲われたところに、外国籍の消防団員というような言葉があるんですが、これは条例ではどのようになっているのでしょうか。実際には、言葉の壁もあるので、やっていただくことに問題はないんですが、実際に受け入れのほうでは難しいこともあると思います。

(委員) 大都市では外国人向けの防災訓練があったり、若い人も結構おられますので、外国籍の方であっても受け入れる、同じチャンスを与えるということで良いと思うんです。

(委員) 都市という言葉から連想するのは、人口増加とか、経済が良くなったり、福祉が良くなったりということだと思いますが、人口減少をどうやって減らしていくのか、福祉が充実していてこのまちで住みたいとかそういうイメージがあまり入っていない気がします。

会長 日本はどこに行っても、人口減少と経済縮小を前提に計画づくりをしていて、本当にそんなことばかり言っていて大丈夫かなと思っているんです。やり方によっては、外国人も含めて、豊岡も国内の人がどんどんやってきて、人が減っていくのを止めるのは難しいとは思いつつ、計画としては提案するというのもできるんです。ただ、現実的には人口推計でも右肩下がりなので難しいとは思いますが。この「小さな世界都市」という議論は、量ではなく質で勝負しましょうということだと思いますので、そのあたりは中間的だと思うんですね。日本は小さくなることばかりにとらわれていて、その前提を覆した計画づくりというのはなかなか難しいでしょうね。

(委員) 2ページの一番最後に人口減少が書いてあるんですが、扱いを考えると、一番上じゃないかと思います。去年の秋に、兵庫県で一番小さい町である神河町は、20年で100人減っているんですが、色々な対策を打って、40何人の子どもしか産まれなかったのが、去年は70何人になっているらしいです。そのような対策が豊岡市にも必要なのではないのでしょうか。人口減少を大きくクローズアップした構想を考えていけないといけないのではないのでしょうか。

会長 政策を人口減少のところに、移していくことになるのでしょうか、それを本気

でできるかどうかなんです。小さな町で成功しているところは、本気でやり始めているまちで、大胆な政策転換なんです。豊岡でもその方向で進んではいると思いますが、より明確に示していけるかどうかなんですけど、その政策が実際に功を奏しているかどうかは分からないところですが。

(委員)

7ページの「芸術文化を創造する」というところで、「創造する」というのは相当ハードルが高い気がします。地方創生のなかで、芸術文化を核にしていくことにはなっていて、文化格差をなくすとか、子どもの時からやるとか、コミュニケーション能力の発揮などはやっていて、芸術を活用はしているんですが、そこからさらに創造していくとなるとハードルが高いです。活用するというか、みんな楽しんで、生活を豊かにするというのは出てきたんですが、創造するというところまではと今日、初めて読ませていただいて驚いているところです。

(委員)

第4章の重点的な取組みですが、アンケート調査で、今後の重要度が一番高かったのが医療や介護なのに、それが記載されていないので、これは入れていただきたいです。あとは地域コミュニティも入れておいて欲しいです。

(委員)

読もうと思ってもなかなか難しく、説明書を読むように苦痛な部分もあります。説明してもらわないと分からないようなものではなくて、もう少し誰でも読めるようにしていただけないでしょうか。イメージ図が入っているところは読みやすくなっていますが、それ以外は難しいと思いました。

副会長

田舎はどこでも教育にお金を使っていますが、最終的には学歴などをもって若者は都会に行ってしまう。人口減少の問題は大切なので、税金が減ってしまいますし、地方は税金を納めてもらう人が出ていってしまいますので国全体で考えていかないといけないと思います。豊岡市だけではありません。

会長

言葉じりだけですが、5ページの1番目の豊岡らしさと3番目の豊岡らしさが重なっていておかしいと思いますので、このあたりを整理してください。7ページの「受け継いできたものを守り育て引き継ぐ」というところですが、説明によれば、新しいものを提案していくということだったんですが、この文章だけで見ると、伝統をずっと守り続けていくという意味が強いので、ご説明いただいたように、新しいものを創造していくような言葉を込めたほうが良いのではないのでしょうか。

事務局

今日、大筋のところ、内容についてはご了承いただいたと思っています。ご指摘いただいた内容については、また、整理させていただいて、進捗状況にもよりますが、今後、最大3回の審議会を開催させていただきたいと思っています。

5. その他

なし

6. 閉会